

2006. 世界のサンゴ礁

〔Ⅳ〕 次ページの図を参照しながら、次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を、解答欄に記入しなさい。

図の海域の灰色部分は、(1)礁が分布するところである。これには明瞭な偏りがある。(1)礁を構成する生物の多くは(2)性の生物から構成されており、赤道を挟むほぼ両(3)線の間の(2)海域に限られている。インド洋と太平洋は両(3)線間に(2)海域が続くので、(2)性の生物の交流があり、構成する種類は共通している。他方、大西洋は両(3)線間の海域で見るとインド洋・太平洋と続かず、インド洋・太平洋とは種構成が異なっている。

(1)の種類が最も多く(1)礁の面積が大きい海域は^こ濠亜地中海で、国でいえば(4)である。ここは、現在見られる礁の主役の(1)が発生し栄えた^{まつえい}テーティス海の末裔とも言える場所である。大西洋はこのテーティス海から早い時期に分離したために、インド洋・太平洋と比べると独自の進化を遂げてきたのである。

(1)礁の分布をよくみると、インド洋、太平洋、大西洋いずれも西部または西端に分布が集中している。大西洋ではほとんど(5)海に限定されていると言ってもいい。この西に偏る最も重要な因子として海流の動きを挙げることができる。太平洋の西側でみると(1)礁が他海域と比べて(3)線を大きく超えている。これは太平洋を東から西に横断してきた(6)海流が、北に向きを変えて黒潮となり、勢いよく(2)水塊を高い緯度方向に運んでいるためである。太平洋東縁の両(3)線間では(1)礁の分布範囲は小さい。これは、北からカリフォルニア海流が、南からは(7)海流が流れ込み、さらに深海からは冷たい^{ゆうしやう}湧昇流が見られるためである。

(1)礁が西に偏る理由はもう一つある。(1)礁の主役である(1)は共生する単細胞生物との関連から浅瀬でのみ生息する。その浅瀬が大洋の東部には少ない。太平洋西部に見られる(1)礁集中域のうち、西部は前述の(4)およびその周辺海域であり、ここでは火山島など高い島が続き隆起地域となっており、ダーウィンのいう^{きふ}裾礁が分布する。(1)礁集中域の東南部に

はトゥアモトゥ諸島がある。ここはダーウィンの時代に Low Isles と呼ばれたように、海面付近にダーウィンのいう(8)礁のみが分布している。火山島など高い島は全くなく、長く沈降してきた海域である。

南米大陸大西洋岸と赤道が交わる部分では、大洋西縁の両(3)線間でありながら(1)礁がほとんど見られない。この地は世界最大の流域面積を誇る(9)川の河口の周辺域にあたる。(1)は外洋と同様の(10)分濃度と清澄な水を必要とするが、(9)川は(2)気候下の河川でありその河口からは大量の淡水と泥を排出する。河口からかなり離れた場所であってもその影響は大きく、(1)礁が形成されないのである。



(以 上)